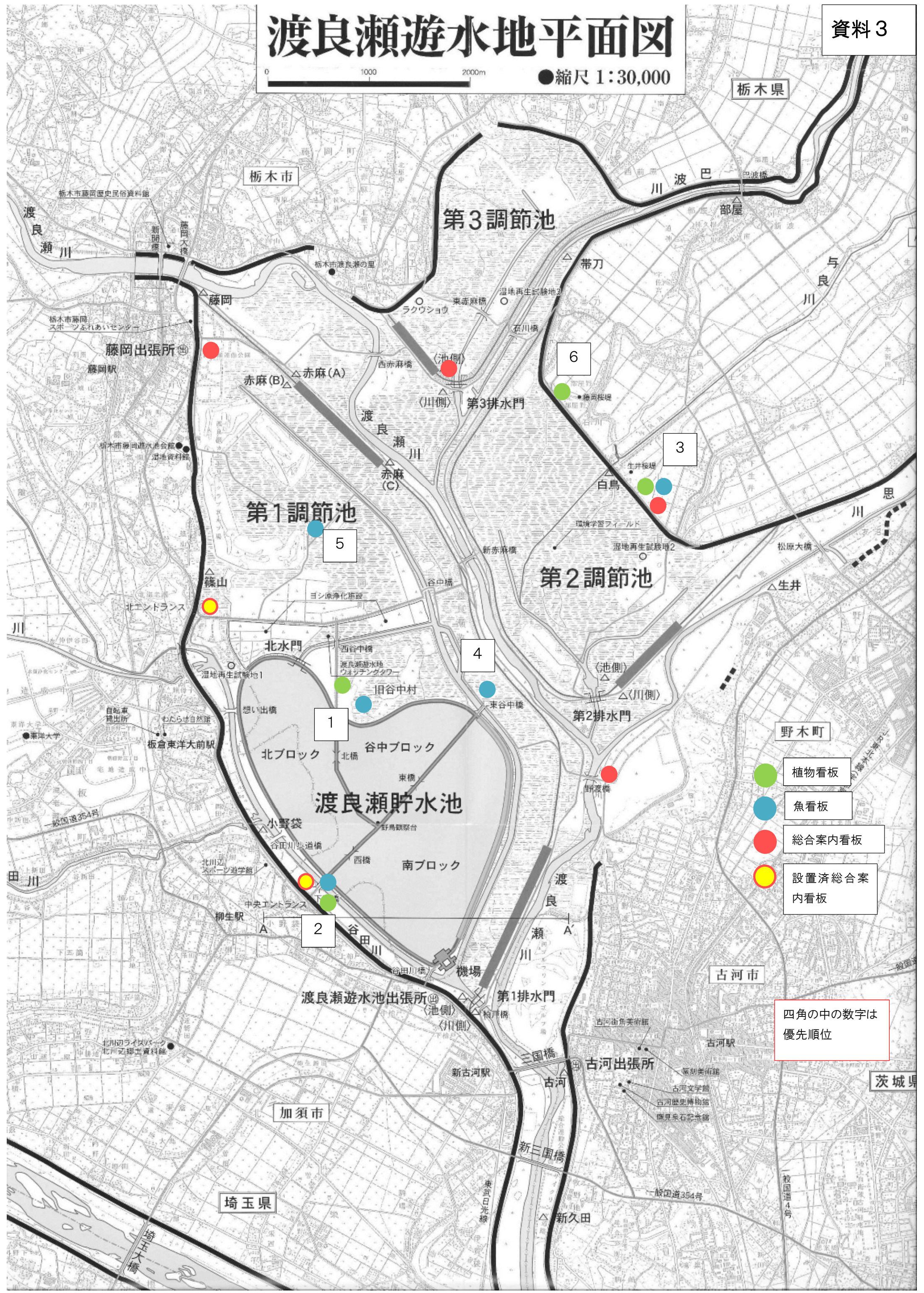


渡良瀬遊水地平面図

●縮尺 1:30,000



- 植物看板
- 魚看板
- 総合案内看板
- 設置済総合案内看板

四角の中の数字は優先順位

渡良瀬遊水地の主な外来生物

特定外来生物の取り扱いにご注意ください！！

特定外来生物である魚類を釣った場合には、運搬や放出などはできません！

オオクチバス



特徴

全長は30～50cm。
体側から背にかけて不規則な暗斑があり、腹側は黄味を帯びた白色。

ブルーギル



特徴

全長25cm。
生後約1年目までは体形がやや細く、体側に7～10本の暗色横帯がある。

チャネルキャットフィッシュ (アメリカナマズ)



特徴

最大で132cm
ヒレと胸ヒレに鋭いトゲを持っているため捕食されにくい。

アメリカザリガニ (緊急対策外来種)



特徴

平野部の水深が浅く流れのゆるい泥底に生息。
夜になると出歩いて餌を探す。

～・～・～ 外来種被害予防3原則 ～・～・～



入れ
ない！



捨て
ない！



拡げ
ない！

特定外来生物とは??

海外起源の外来種で、生態系、人の生命・身体、農林水産業への被害を及ぼすもの、または及ぼす恐れのある生物で、外来生物法に基づいて指定された生物のことです。

飼養・栽培・保管・運搬・販売・譲渡・輸入・野に放つこと・種をまくこと等は原則禁止されており、違反した場合は罰則が課せられます。

外来種が
引き起こす
3つの悪影響

① 日本固有の生態系への影響

- ・在来種を食べる
- ・近縁の在来種と交雑して雑種をつくる
- ・在来種のえさや住処を奪ったりする

② 人の生命・身体への影響

- ・毒をもっている
- ・人を噛んだりする

③ 農林水産業への影響

- ・農林水産物を食べる
- ・畑を踏み荒らす

渡良瀬遊水地の主な外来生物

生態系被害防止外来種に指定されています！！

セイタカアワダチソウ



- 特徴
背が高く、0.5～3mに達する。
秋に濃黄色の小さな花を多く
付ける。

オオブタクサ

- 特徴
遊水地の道路沿い
に多く見られる。



セイバンモロコシ

- 特徴
夏から秋に円錐花序の
多数の小穂をつけた
15～50cm の穂を出
す。



《 生態系被害防止外来種とは 》

- 侵略性が高く、我が国の生態系、人の生命・身体、農林水産業に被害を及ぼす又はその恐れのある外来種を選定しています。
- 外来生物法に基づく規制の対象となる特定外来生物・未判定外来生物に加えて、同法の規制対象以外の外来種も幅広く選定しています。
- 国外由来の外来種だけでなく、国内由来の外来種も対象となっています。

外来種被害予防3原則

- ①入れない
- ②捨てない
- ③拡げない

在来種を守ろう!!

特定外来生物に指定されています！！

オオキンゲイギク



- 特徴
全国的に野生化し、河川敷や
道路に大群落を作っている。
春～初夏にかけて直径 5～
7cm 黄橙色の花を咲かせ、葉
は細長いへら状をしている。

アレチウリ



- 特徴
葉はザラザラしていて、粗
い毛を密生させたツルを
伸ばす。夏から秋に1cm
程度の黄白色の花が集ま
って咲き、トゲを密生した
果実をつける。

オオカワチシャ



- 特徴
近縁の在来種、カワチシ
ャと交雑し、雑種を形成
し、在来種の遺伝的攪乱
が生じている。

渡良瀬遊水地の主な外来生物

特定外来生物の取り扱いにご注意ください！！

特定外来生物である魚類を釣った場合には、運搬や放出などはできません！

特定外来生物とは??

海外起源の外来種で、生態系、人の生命・身体、農林水産業への被害を及ぼすもの、または及ぼす恐れのある生物で、外来生物法に基づいて指定された生物のことです。

飼養・栽培・保管・運搬・販売・譲渡・輸入・野に放つこと・種をまくこと等は原則禁止されており、違反した場合は罰則が課せられます。

外来種が
引き起こす
3つの悪影響

① 日本固有の生態系への影響

- ・在来種を食べる
- ・近縁の在来種と交雑して雑種をつくる
- ・在来種のえさや住処を奪ったりする

② 人の生命・身体への影響

- ・毒をもっている
- ・人を噛んだりする

③ 農林水産業への影響

- ・農林水産物を食べる
- ・畑を踏み荒らす

オオクチバス



●特徴

全長は 30~50cm。
体側から背にかけて不規則な暗斑があり、腹側は黄味を帯びた白色。

●影響

肉食性で在来生物を捕食し、生態系に大きな影響を与える。

●日本に入ってきた経緯

食用目的で持ちこまれ、釣りの対象として全国に放流されたものが野生化。

●一般的な防除方法

定置網・刺網・電気ショッカーボートによる捕獲、駆除。

●特徴

全長 25cm。
生後約 1 年目までは体形がやや細く、体側に 7~10 本の暗色横帯がある。

●影響

雑食性で、在来生物に直接的または間接的な影響を及ぼす。

●日本に入ってきた経緯

釣りや観賞用とされていたものが放流され、野生化。

●一般的な防除方法

定置網・刺網・電気ショッカーボートによる捕獲、駆除。

ブルーギル



チャネルキャットフィッシュ (アメリカナマズ)



●特徴

最大で 132cm
ヒレと胸ヒレに鋭いトゲを持っているため捕食されにくい。

●影響

魚類だけではなく、甲殻類、貝類、水生昆虫、小型の哺乳類など、水域の様々な動物を捕食する。

●日本に入ってきた経緯

アメリカでは食用として利用されており、日本でも水産目的として導入。

●一般的な防除方法

効率のいい方法はまだ見つかっていない。

●特徴

平野部の水深が浅く流れのゆるい泥底に生息。夜になると出歩いて餌を探す。

●影響

水田などでは畔に穴を開け、稲の根を食い荒らし、水草や小動物がことごとく食い尽くす。

●日本に入ってきた経緯

食用のウシガエルの餌さとして導入されたものが野生化。

●一般的な防除方法

既に定着している地域が多く、バットとしての飼養も多いため、対策が難しい。

アメリカザリガニ (緊急対策外来種)



〜〜〜 外来種被害予防 3 原則 〜〜〜



入れ
ない!



捨て
ない!



拡げ
ない!

渡良瀬遊水地の主な外来生物

生態系被害防止外来種に指定されています！！

●セイタカアワダチソウ●



●特徴
背が高く、0.5～3mに達する。
秋に濃黄色の小さな花を多く付ける。

●影響
根からアレロパシーという化学物質を出し、
周囲の植物の成長を抑制。

●一般的な防除方法
7月下旬～8月中旬に刈り取ると、再生して、
も背丈が小さい状態で花を付けるか、開花結
実を行わずに冬季に枯死を迎える。

●オオブタクサ●



●特徴
遊水地の道路沿いに多く見られる。

●影響
固有種を含む在来種と競合し、駆逐する。
花粉症の原因ともなっている。

●一般的な防除方法
生育初期段階の防除が有効。

●セイパンモロコシ●



●特徴
夏から秋に円錐花序の多数の小穂をつけた
15～50cmの穂を出す。

●影響
畑作物や在来種との競合、穀物との交雑が指
摘されている。

●一般的な防除方法
抜き取り、刈り取りによる防除が有効。

外来種被害予防3原則

- ① 入れない
- ② 捨てない
- ③ 拡げない

在来種を守ろう!!

《生態系被害防止外来種とは》

- 侵略性が高く、我が国の生態系、
人の生命・身体、農林水産業に被
害を及ぼす又はその恐れのある外
来種を選定しています。
- 外来生物法に基づく規制の対象と
なる特定外来生物・未判定外来生
物に加えて、同法の規制対象以外
の外来種も幅広く選定していま
す。
- 国外由来の外来種だけでなく、国
内由来の外来種も対象となってい
ます。

特定外来生物に指定されています！！

●オオキンゲイギク●



●特徴
全国的に野生化し、河川敷や道路に大群落を作っ
ている。春～初夏にかけて直径5～7cm黄橙色の花を
咲かせ、葉は細長いへら状をしている。

●影響
川原特有の在来種と競合し、駆逐する。

●一般的な防除方法
梅雨時に刈り払いを行い、結実を防ぐことが必要。

●アレチウリ●



●特徴
葉はザラザラしていて、粗い毛を密生させたツルを
伸ばす。夏から秋に1cm程度の黄白色の花が集ま
って咲き、トゲを密生した果実をつける。

●影響
河川などで大繁殖しており、ほかの植物がほとんど
育成しない。

●一般的な防除方法
茎葉処理剤や、結実前の刈り取りといった、機械的
防除方法の併用が必要な難防除雑草。

●オオカワチシャ●



●特徴
近縁の在来種、カワチシャと交雑し、雑種を形成し、
在来種の遺伝的攪乱が生じている。

●影響
近縁のカワチシャとの違いは、花の色が鮮やかな青紫
色であることなど。

●一般的な防除方法
抜き取り、洪水攪乱体制の復元などが有効。

★防除の仕方★

【地域やボランティア 団体で防除する場合】

事前に防除活動について公表
し、十分な拡散防止措置をと
って防除してください。

【個人で防除する場合】

抜き取った植物を生きている状
態で移動・運搬することは、外来
生物法で禁止されています。草が
飛び散らないよう、まず袋を密閉
して日当たりのよい場所に数日
置き、草が枯れたり腐ったりし
てからごみ収集所に出してくださ
い。